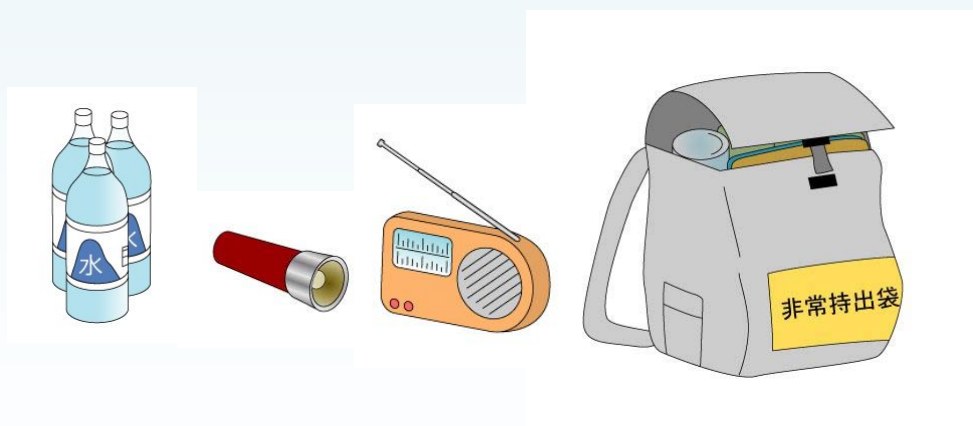


名取が丘地区 防災マニュアル

「地域ぐるみの防災体制」
自分たちの地域は自分たちで守る

ひもを通して目立つところにおきましょう
家族で定期的に確認しましょう



名取市・名取が丘地区

目 次

| | |
|----------------------|------|
| 1. はじめに | P 1 |
| 2. 名取が丘地区について | P 1 |
| 3. 名取が丘地区の過去の災害について | P 2 |
| 4. 名取が丘地区の災害対応計画 | P 3 |
| 5. 名取が丘地区の災害予防計画 | P 8 |
| 6. 避難所の開設・運営への協力について | P 10 |
| 7. 名取が丘地区防災マップ | P 11 |
| 8. 平成 25～26 年の災害と教訓 | P 12 |
| 9. 我が家の防災メモ | P 13 |

名取が丘地区の避難場所等

1 はじめに

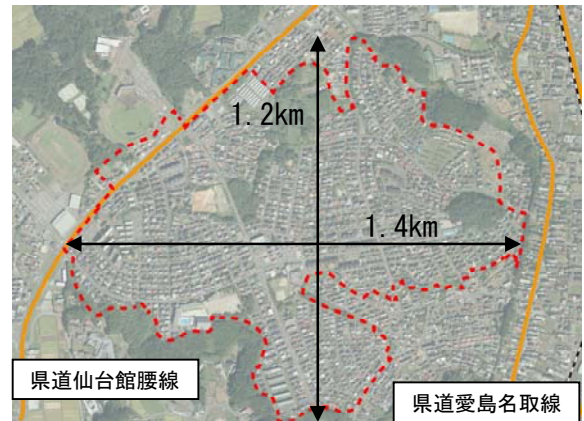
名取市では、東日本大震災の教訓と豪雨災害の教訓を踏まえて、平成 25 年 12 月に自分の命は自分で守ることを基本とした防災・減災への取り組みを示した「名取市民防災マニュアル」を作成し、全世帯に配布しましたが、**大規模災害による被害を軽減するためには、地域の状況に応じた防災対策を、名取市と地域の皆さんが一体となって進めて行くことが重要です。**

このマニュアルは、名取市と地域の皆さん（区長さん、町内会長さんなど）とで作成したもので、名取が丘地区の災害対応計画、災害予防計画などを定めたものです。

2 名取が丘地区について

地形・地勢

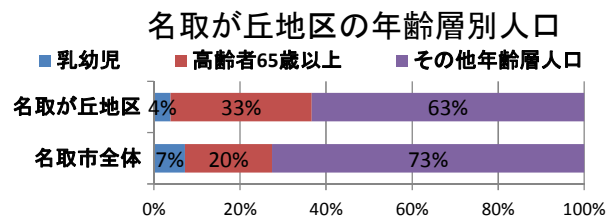
- 名取が丘地区は面積が 0.72km²、東西に約 1.4km、南北に約 1.2km です。
- 市の中央部に位置し、昭和 30 年代後半から 40 年代前に造成された団地です。
- 近隣地区には「国指定史跡 雷神山古墳」や「国指定史跡 飯野坂古墳群」があります。
- 丘陵地で地盤は固いのですが、盛り土した所や急傾斜地崩壊危険箇所もあります。**
- 地区の北西側は、かつて大きな沼があったこと、更に丘陵地から箱塚団地にかけては水の通り道となっていることから地盤が軟弱となっています。



名取が丘地区の地形・地勢

世帯・人口

- 名取が丘地区は、2,297 世帯、5,761 人が住んでいます。
- 名取市全体と比較して高齢化が進んでおり、3 人に 1 人が 65 歳以上の高齢者です。**



名取が丘地区の世帯・人口

| 地区名 | 世帯数 | 人口 | 乳幼児 | 高齢者 65歳以上 | その他年齢層 人口 |
|--------|--------|--------|-------|--------------|--------------|
| 名取が丘地区 | 2,297 | 5,761 | 221 | 1,891 | 3,184 |
| 名取市全体 | 28,561 | 76,107 | 5,471 | 15,347 | 48,997 |

平成 26 年 12 月末現在

3 名取が丘地区の過去の災害について

名取が丘地区では、過去に次のような災害が発生しました。

| 災害名称及び発生年月日等 | 災害による被害状況と当時の状況 |
|---|--|
| 宮城県沖地震 昭和 53 年 6 月 12 日 (仙台市で震度 5) | ブロック塀の倒壊などによる死者、建物被害による多くの負傷者が発生し、都市ガスなどライフラインが停止しました。 名取市では、負傷者 200 人、全壊 17 棟、半壊 61 棟、一部損壊 1,623 棟の被害がありました。 |
| 8・5 豪雨 昭和 61 年 8 月 5 日 (累計雨量 400mm) | 台風 10 号の進路に、海上から多量の水分を含む東風が吹き込んだことにより、宮城県で記録的な豪雨となりました。 名取が丘地区では、7 世帯で床下浸水の被害がありました。 |
| 9・22 集中豪雨 平成 6 年 9 月 22 日 (時間雨量 84mm、 累計雨量 478mm) | 樽水ダムが満水となり、増田川がはん濫したほか、川内沢川、志賀沢川などの中小河川がはん濫しました。 名取が丘地区では、床上浸水 3 世帯、床下浸水 7 世帯のほか、下堀用水のはん濫や箱塚 1 丁目の貯水池があふれました。 |
| 東日本大震災 平成 23 年 3 月 11 日 (名取市で震度 6 強) | マグニチュード 9.0 の巨大地震により、強い揺れが約 3 分間継続し、巨大津波により市内で 911 人が犠牲になりました。名取が丘地区の人も 8 人亡くなっています。 4 月 7 日の深夜には、震度 6 弱の余震が発生しました。 <ul style="list-style-type: none"> ・家具の転倒、屋根瓦の破損等住宅被害がありました。 ・地割れや法面のズレが発生、ブロック塀・フェンスの倒壊が発生しました。 ・名取が丘公民館と不二が丘小学校が避難所になりました。 ・電気、水道、都市ガスなどが停止しました。 ・物流が止まり、燃料の調達に苦労しました。 |



東日本大震災
給水の様子



東日本大震災
倒れたブロック塀

●東日本大震災における名取が丘地区住民の対応

名取が丘地区は、地域の協力により、地域の生活支援を実施しました。

| | |
|----------|---|
| ①炊き出し | ボランティアが集まり、朝夕2回住民にお握りとお茶（伊藤園が提供）を配布しました。提供を呼びかけると、3,000キロ以上の米と多くの食材が集まりました。 |
| ②給水活動 | 高台で断水が長期に及びましたが、自衛隊や新宮市、由利本荘市などが給水活動を行い、飲料水を確保することができました。 |
| ③要支援者の把握 | 震災から3日目に行政区長、町内会長、民生委員などが集まり、高齢者など支援を必要とする人を把握しました。 |
| ④支援物資の配布 | 高齢者等に、民生委員、行政区長、町内会長の協力で優先配布しました。また、公民館ホールに配給所を設け、一人ずつ配布しました。 |
| ⑤広報活動 | 給水、炊き出し、支援物資の配布について、毎日2時間、広報車で周知しました。 |
| ⑥被害調査 | ボランティアを募り、地区全体の被害調査を実施し、市に報告しました。 |

4 名取が丘地区の災害対応計画

地区で想定する災害

直下型地震や経験したことのない大雨に備える

- ・直下型地震による住宅被害や液状化、地盤沈下
- ・直下型地震などによるブロック塀の倒壊や屋根瓦の落下、火災の発生
- ・大雨や集中豪雨によるがけ崩れ、用水路のはん濫や住宅地の浸水（箱塚など）

（1）名取が丘地区の長所

名取が丘地区の災害に強い点としては、「地盤がしっかりしている」、「高台なので水害の心配が少ない」ことがあげられます。直下型地震による建物被害や経験したことのない大雨（時間雨量100mm以上）などに備え、防災対策を行きましょう。

（2）名取が丘地区で心配されること

心配な点としては、「高齢者が多い」、「住宅が密集して火災が心配」、「高台なので水害時に孤立する」、「がけ崩れが心配」、「断水しやすい」などが挙げられますので、その対策を行きましょう。

高齢者は、激しい運動が難しく、視力や反射神経の低下、骨折しやすいなど身体の変化が起こりますので、事前の防災対策（転倒防止対策等）を行っておくが大切です。

地震から命を守るために

～対応の基本～

- ・まず自分の身を守る。
- ・地域の一時避難場所である公園などに避難し、安否確認を行う。
- ・集会所で炊き出しなどを行い、要支援者を支援する。

1 緊急地震速報や揺れを感じたら、自分の身を守る

倒れやすいものか離れる。頭を守る。慌てて外に飛び出さない。

外にいる場合は、ブロック塀や自販機などから離れ、落下物に注意する。



●長野県北部を震源とする地震では以下のようなケガによる重傷者がいました。

タンスが倒れ頭部挫創と肋骨骨折。タンスの下敷きになり足首骨折、ストーブから倒れたやかんの熱湯により両下肢熱傷。胸部圧迫による吐血。腰部圧迫骨折など

※ 災害時には落ち着いて行動することが有効ですが、転倒防止対策はそれ以上に有効です。

2 揺れが収まったら、火元や家族の安全を確認し、隣近所に声をかける 情報入手を忘れずに！

ガラスなどで怪我をしないよう、スリッパや靴を履きましょう。

ラジオで地震情報を得て、直下型地震なら大きな余震に備えましょう。

●新潟県中越地震の余震

新潟県小千谷市では、震度6強の本震から2時間以内に、震度6強（2回）、6弱（1回）、5強（4回）、5弱（3回）の余震がありました。

3 通電火災を防ぐため、ブレーカーを下ろし電化製品の周りを片付ける

「通電火災」は、地震による停電が復旧した際、電気製品が再稼動したり、傷ついた電気コードがショートして、地震で散乱したものに引火する現象です。

4 避難について

家屋が倒壊しそうな場合は、指定避難所に避難しましょう。

不安な場合は、一時避難場所に集まり、余震が収まったら家に戻りましょう。

避難の際は、電気のブレーカーを下ろし、カズの元栓を閉め、非常持出品を持ちましょう。

5 町内会・自主防災組織の活動

●自主防災組織の意義

阪神・淡路大震災では、地域住民が協力し初期消火で延焼を防ぎ、倒壊家屋から救助活動を行い多くの命を救いました。要救助者の8割を地域住民が救助したのです。

大規模な地震が発生したときは、家屋の倒壊、火災の発生、倒壊物による道路の通行止め、信号の停止による渋滞などが発生し、行政の救助に時間を要することになります。

消防機関などの公助の活動が到着するまで、地域住民が協力し、防災活動を行うことにより、地域の被害を軽減することができるのです。

地域の防災体制の役割により、次の初動活動をすることが重要です。

(1) 安否確認、避難誘導

大きな地震が発生した場合は、まず安否確認です。

日頃から安否確認の体制を整備しましょう。

(2) 初期消火、救出・救護活動

消火器などを使い、初期消火を行いましょう。

救出活動を行う場合は、余震に注意しましょう。

防災用資機材などにより初期消火や救出・救護訓練を行いましょう。

(3) 情報収集や情報伝達

被害状況を把握し、市に救助要請を行いましょう。

市からの情報を掲示するなど、情報伝達を行いましょう。

(4) 集会所など一時避難所の開設、炊き出し

集会所や公園などに避難し、余震が収まるのを待ちましよう。

防災用資機材を活用し、炊き出しをしましよう。

(5) 指定避難所の運営協力、災害時要支援者の支援

指定避難所での協力や災害時要支援者の支援を行いましよう。



6 海の近くでは、津波に注意

東日本大震災では、名取が丘地区の方も津波等により亡くなっています。

(1) 海岸部で、大きな揺れや長い揺れを感じたら、津波情報を得て、高いところや遠くにすぐ避難する。

(2) 津波は川を遡上するので、川から離れることも大切です。

風水害から命を守るために

～対応の基本～

- ・集中豪雨、竜巻、落雷、豪雪から命を守るためには、**安全な建物に避難し、災害をやりすごすことが重要です**。情報収集を行い、不要な外出は極力控えましょう。
- ・浸水しやすい低地の平屋、裏山など斜面に隣接した家屋は、**早めに避難しましょう**。
- ・特に浸水の可能性がある箱塚地区から指定避難所の不二が丘小学校や名取が丘公民館までの道路は浸水しやすく危険です。**浸水時の避難は極力避けましょう**。

1 気象情報を収集し、不要な外出は極力避ける

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻などの風水害は、「**大気の状態が非常に不安定になっているとき**」に発生します。

普段からテレビ、ラジオなどの気象情報に注意し、台風や豪雨、大雪などが予想される場合、不要な外出は極力避けましょう。

また、停電や濁り水などに備え、**災害備蓄品の確認を行きましょう**。



テレビ

●気象情報と対応

| | |
|------------|---|
| 土砂災害警戒情報 | 土砂災害の危険性が高まっているときに発表されます。 土砂災害の危険性がある場所では、自主避難の目安です。 |
| 記録的短時間大雨情報 | 時間雨量 100 mmを超える雨が降ったときに発表されます。 市内で災害発生の危険性が非常に高まっています。 |
| 大雨特別警報 | 50年に1度以上の大雨が予想されるときに発表されます。 直ちに命を守る行動が必要となります。 |

2 積乱雲の予兆現象を見たら、直ちに屋内に避難する

集中豪雨、ゲリラ豪雨、落雷、竜巻の原因は、積乱雲（入道雲）です。

積乱雲の予兆現象を見たら、直ちに屋内に避難しましょう。

●積乱雲の予兆現象

- ・**辺りが急に暗くなる**……巨大な積乱雲が空をさえぎるため
- ・**雷が聞こえる**……巨大な積乱雲の下で落雷が集中するため
- ・**冷たい風を感じる**……積乱雲の下の重い冷気が、暖かい側に流れ出すため

3 最適な避難行動を

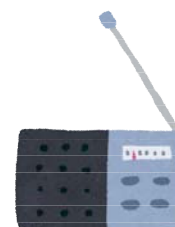
(1) 避難勧告等でのべき行動

名取市からの避難勧告などがあった場合、状況に応じ適切な行動をお願いします。

| 区分 | とるべき行動 |
|--------|---|
| 避難準備情報 | 非常持出品の確認など避難の準備を行います。 災害時に支援が必要な方は、早めの避難を心がけましょう。 |
| 避難勧告 | 自宅の2階などに避難します（垂直避難）。 低い土地の平屋や崖の近くでは、早めの避難を行います。 |
| 避難指示 | 記録的大雨情報が発表されたときなど、災害の危険が切迫しているときに発表されます。直ちに命を守る行動をとって下さい。 |
| 自主避難 | 市からの勧告等がなくても、災害の危険性が迫っていると判断した場合は、必要に応じ速やかに避難して下さい。 |

(2) 伝達方法

市からの避難指示、避難勧告は、防災行政無線となとらじFM80.1MHz、エリアメール、テレビのテロップ、ホームページなどで伝達します。



エリアメールやテレビのテロップで市からの避難勧告を知った場合は、「なとらじFM80.1MHz」で、市からの情報を入手してください。

4 土砂災害の恐れがある場合は、早めに避難する

がけ崩れ（急傾斜地崩壊危険箇所）については以下のホームページで確認できます。

土砂災害危険箇所図公表システム <http://www.dobokugis.pref.miyagi.jp/>

避難が危険になっている場合は、自宅の2階や斜面から遠い部屋、または近所の安全なお宅に避難しましょう。日頃から夜間などの災害を想定し、複数の避難方法をシュミレーションしておきましょう。



土砂災害の前兆現象に注意！

- ・斜面に亀裂が走る
- ・異音がする
- ・異臭がする
- ・地鳴りがする
- ・斜面から小石が落ちてくる

以上のような前兆現象があった場合は、直ちに避難行動を開始しましょう！！

5 名取が丘地区の災害予防計画

みんなで災害予防活動に取り組みましょう。

個人でできること（自助）～自分の命は自分で守る～

1 防災に関する知識及び技術の修得

防災訓練や防災講座に参加し、防災に関する知識や技術を修得しましょう。

2 災害時のシミュレーション・家族の話し合い

災害が起きたときの対応について家族で話し合い、避難方法や避難場所、電話が繋がらなくなったときの集合場所などを事前に決めておきましょう。

3 非常持出品と災害備蓄品の準備

停電や断水などに備え、非常持出品と災害備蓄品を準備しましょう。

4 転倒防止対策の実施等

特に寝室や脱出経路は、重点的に実施しましょう。
昭和56年以前の建物は耐震診断を受けましょう。名取市では耐震診断の支援を実施しています。



家具等の転倒

5 住宅用火災警報器・消火器の設置

火災に備え住宅用火災警報器と消火器を設置しましょう。



町内会・自主防災組織でできること（共助）～自分たちの地域は自分たちで守る

1 災害時の役割分担や活動マニュアルなどの確認

役員交代の際など、災害時の役割分担や活動の手順を確認しておきましょう。

2 防災訓練や防災講座の実施

安否確認や避難訓練、初期消火、応急手当などの防災訓練、防災講座などを実施しましょう。



3 一時避難所の確保と防災資機材の整備

集会所や公園など地域の一時避難場所に防災資機材などを整備し、使用できるようにしておきましょう。

4 災害時要支援者への支援方法の検討

東日本大震災で、名取が丘地区は公民館を中心に高齢者など災害時要援護者を確認し支援を行いました。日頃から支援方法を考えておきましょう。



5 コミュニケーションの促進

若い人たちが参加しやすい行事を企画し、会員相互の親睦を深めましょう。

名取が丘地区でできること（共助）～地域ぐるみの防災体制をつくる～

災害予防の必要性を啓発し、経験したことのない災害に備えるため、次の対策を行います。

1 町内会・自主防災組織連絡協議会の設立

名取が丘地区の防災活動を推進するため、連絡協議会を設立しましょう。

2 自主防災組織の設立推進

設立された自主防災組織連絡協議会に学び、各町内会で自主防災組織を設立しましょう。

3 地区防災訓練の実施

町内会単位での防災訓練とともに、避難場所となる不二が丘小学校や名取が丘公民館で、地区全体の防災訓練を実施しましょう。

4 防災講座、防災研修会の実施

名取が丘地区防災講座を実施するとともに、町内会・自主防災組織の情報交換を行い、自主防災活動の質の向上を図りましょう。

5 災害時の活動体制の構築

東日本大震災の時ように、地区全体で助け合えるよう、地区内の連絡方法や活動方法を検討しましょう。

●東日本大震災の避難所（名取が丘公民館）

震災当日、公民館には 270 人が避難しました。市職員が受付で避難者名簿を作成、地区の人が自主的に集まり、毛布や布団、衣類などの提供があり、炊き出しを行いました。

トイレは断水ですぐ使えなくなり、簡易トイレを作りました。停電で暖房器具が使えませんが、発電機を届けてくれた人がいて、暖をとることができました。

電気が復旧すると、避難者を 2 階研修室に集約しました。看護師の資格がある人が健康管理などを行い、地区の人から多くの支援がありました。獣医師会は、ペットのためのゲージを提供してくれました。

避難所は、皆さんの協力で運営され、無事に閉鎖することができました。

町内会・自主防災組織を中心に助け合って避難生活を送りましょう

市職員や施設職員の指示に従い、高齢者や妊産婦などの災害時要支援者を思いやり、町内会や自主防災組織の役員を中心に次の協力をお願いします。

1 避難所の開設・避難者の収容 ～避難所に入るとき～

建物の安全が確認されるまで、町内会ごとに建物の外で待機し、職員の指示に従い避難所に入ります。

2 初期の避難生活 ～避難勧告などが解除されるか、電気・水道の復旧まで～

避難人数の確認、避難者名簿の作成、簡易トイレの設置、市からの食料・物資の配布などについて、協力をお願いします。



3 長期の避難生活

町内会などの単位で班を編成し、避難所自主運営組織を作り、役割分担を定め、避難生活を行います。

●避難所の備蓄品や設備について

名取が丘公民館と不二が丘小学校には、市の防災倉庫があり、発電機やバルーン投光機、ランタン、簡易トイレと薬剤、トイレテント、更衣用テントなどが備蓄されています。

不二が丘小学校には、浄水型プールなどがあります。

いざというときに使用できるよう、防災訓練で確認しましょう。

7. 名取が丘地区防災マップ



8 平成 25～26 年の災害と教訓

全国で発生した災害から災害時の行動を考えましょう。

| 災 害 | 状 況 | 教 訓 |
|--|--|---|
| 秋田・岩手豪雨 (H25. 8. 9) (時間雨量 100mm 超) | 秋田・岩手の各地で観測史上最大の雨量を記録し、洪水はん濫が発生、土石流などにより 8 人が亡くなった。 | 気象庁は、 局地的豪雨を正確に予測することは現行技術では難しい と会見 |
| 越谷市の竜巻 (H25. 9. 2) (風速 50～69m) | 発達した積乱雲により竜巻が発生し、長さ 19km、幅 300m にわたり、家屋や屋根が吹き飛ばす、ガラスが飛び散るなどの被害が発生した。 | 埼玉県で全壊 12 棟、半壊 31 棟、重症 7 人、軽症 56 人⇒ 竜巻や積乱雲の前兆現象を見たら屋内に入る。 |
| 伊豆大島の土砂災害 (H25. 10. 16) (時間雨量 100mm 超) | 台風 26 号により、伊豆大島で 1 時間に 100 mm 以上、24 時間で 824 mm の記録的な大雨となり、大規模な土砂災害が発生した。 | 大島町で、全壊 46 戸、死者・行方不明者 39 人⇒ 土砂災害から命を守るためには避難が必要 |
| 平成 26 年 2 月の大雪 (H26. 2. 14～16) (山梨県で観測史上最大の大雪) | 前線を伴った低気圧が発達し、各地で大雪となり、9 県で 26 人が死亡、全国で重症 118 人、軽症 583 人の被害が発生した。120 年間 50cm 以上の雪が積もらなかった山梨県に 100cm 以上の雪が積もった。 | 死者は、倒壊した車庫等の下敷きで 7 人、屋外で 7 人、車内の一酸化炭素中毒等で 5 人、除雪事故で 4 人、上部からの落雪で 3 人⇒ 不要な外出を避ける。 |
| 南木曾町の土砂災害 (H26. 7. 9) (時間雨量 80mm) | 局地的豪雨により、大雨・洪水警報、土砂災害警戒情報発表前に土砂災害が発生した。白い雨 (80mm 以上の雨) が降ったら、蛇がぬける (土石流が起きる) との石碑があった。 | 局地的豪雨では、警報が間に合わない場合がある⇒ 雨の降り方から自己判断が必要な場合もある。 |
| 四国地方の大雨 (H26. 7. 7～11) (累計雨量 1,000mm 超) | 台風 11 号と前線により、四国から東海にかけて 600 mm を超える大雨となり、5 県で 6 人が亡くなった。 高知県では累計雨量が 1,000 mm を超えたが、死者はなかった。 | 川と海水浴場で 3 人、落雷で 1 人が亡くなった。 ⇒ 不要な外出を避ける。台風の常襲地帯では、風水害への備えが徹底している。 |
| 広島県の土砂災害 (H26. 8. 20) (時間雨量 100mm 超) | 1 時間に 100mm を超える猛烈な雨により、土砂災害が発生し 74 人が亡くなった。 | 就寝中に予期せぬ猛烈な雨になることもある⇒ 雨音や雷から状況判断が必要 |
| 長野県北部地震 (H26. 11. 22) (最大震度 6 弱の直下地震) | 22 時 8 分頃、長野県北部を震源とする地震が発生。白馬村で建物が全壊し、住民が閉じ込められたが、近隣住民の速やかな救助活動により、全員無事に救出された。 | 直下地震で建物が倒壊したときなど、 個人の力ではどうしようもないとき、隣近所、町内会などの共助が力を発揮する。 |

9 我が家の防災メモ

<家族の状況>

| 氏名 | かかりつけの病院 | 携帯電話番号 |
|-------------------|----------|-------------|
| 生年月日 | 持病・常備薬 | 会社・学校等の名称 |
| 血液型 | | 会社・学校等の電話番号 |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 年 月 日 型 Rh +・- | | |
| 避難場所 | | |
| 家族の集合場所 | | |

名取が丘地区の避難場所

| 区分 | 名称 | 電話番号 |
|-------|---------|--------------|
| 指定避難所 | 不二が丘小学校 | 022-382-2097 |
| | 名取が丘公民館 | 022-384-2709 |

平成27年2月現在

災害時の連絡先

| 区分 | 名称 | 電話番号 |
|--------|----------|--------------|
| 市役所 | 名取市役所 | 022-384-2111 |
| 警察 110 | 岩沼警察署 | 0223-22-4341 |
| 消防 119 | 名取市消防本部 | 022-382-0242 |
| | 災害伝言ダイヤル | 171 |

親戚・知人などの連絡先

| 氏名 | 電話番号 | 備考 |
|----|------|----|
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |
| | | |

名取市総務部防災安全課

〒981-1292 名取市増田字柳田 80

電話 022-384-2111